

【還暦を迎えた一〇B】のひと言

昭和 58 年卒部 水間 得三

H30年10月14日 第127回東京六大学ダンス選手権を開場前の早朝から母校のベンチにおいて見守った。

最初に気が付いたのは、他校に比べて母校の部員数が著しく少ないことだ。前回9月22日「OB・OG・現役幹事会」の打合せ時、耳にしていたが現実を目の当たりにすると、これから始まる「団体成績」の行方に一抹の不安を感じた。

開会式では、私と同期である杉崎（旧姓山田）加代子プロ<立教女学院卒>がスタンダードの審査委員長として堂々とした佇まいで、「審査基準」「心構え」「激励」する姿に喜びと誇らしさを抱いた。本当に素晴らしい審査委員長の挨拶に感動した。学生時代は抜群のダンス技術に併せて可愛らしさ+涙もろい一面を持ち、プロとして堅実なスタジオ経営、ジュニア・ジュブナイル層育成で全日本アマチュアトップ選手を輩出させている名コーチでもあり、家庭では良き妻・母親として立派に一女を育てあげている姿に、「サラリーマン生活」だけを歩んできた自分は増々尊敬の念を強くするばかりだ。

「立教大学舞踏研究会」が輩出した素晴らしいプロの方々は、他大学と比べても全く遜色ないと確信している。プロの皆さんは、我々舞研人の憧れる人生を歩んでいるのでは？！さて、11月に入りいよいよ4年生は学生ダンスの集大成を迎える「東部日本学生ダンス選手権」&「全日本学生ダンス選手権【種目別】」の二つの競技会で「卒業」を厭でも迎える。入部して、パーティーダンス⇒基礎体力訓練⇒新人戦⇒レギュラー戦、その間夏・冬合宿、各種打ち上げコンパ・4年生のラストワルツ・新入生勧誘・連盟の仕事等々何事においても多くの仲間が存在してくれるからこそ、各種行事・運営が成立している。

そのことを「転換期」の小生が改めて感じるのは、やはり「舞踏研究会」を基軸にした「つながり」の大切さ&重要性に感謝しながら OB・OG特に現役の諸君に伝えたい。話しは冒頭に戻るが 今回の東京六大学戦に於いて母校だけが各種目「3」ポジションエントリー可能にも係わらず、「サンバ&パソ」の3番目がエントリー出来ない状況とスタンダードの3ポジ目(W&Q)に一年生が出場する状況であった。要は部員数が少なく選手層が他校に比べて薄い。結果として、春・秋連続の最下位になってしまった、残念至極。そこに、もともと在校生が少ない理由は無いと思う。

<参考=立教 19880名、獨協 8650名、電気通信 4982名、首都大学東京 9170名、東京外国語 4387名、上智 13435名、東京理科 19673名、東京大学 27955名>

特に、獨協大学における最近の動向(特に団体成績、部員数)は参考に値すると思う。

他大学は「新歓」を成功させていないか？！立教は他校から手法を学び取り入れるべき。

ところが、わが母校にも以下の事例がある

① 創部60周年頃の母校は100名に近い当時大学No.3の部員数で団体成績・個人成績も

それなりの結果を出していた状況があった。

- ② 1984年には創部史上初めての春「東京六大学団体初優勝」春「全日本選抜団体優勝」を成就した『黄金時代』がある。(現・代表幹事菊地健男君、藤本明彦プロ、吉永憲一君、富所佳規君、故長沼忠義主将、故岡 定人君及び有能なパートナー陣の功績)
＜因みに昭和58年卒の我々幹部が上級生・下級生一体となり勧誘と育成をした。

教え子の活躍に自らの成績以上に心から感動した！＞

そこで「部員募集に波があります」など弱気発言せず、今からでも考えられることは全て実践、【将来を担う立教大学舞研人】をなにがなんでも導入して欲しい。

「SNS」「Instagram」活用、あるいは原点回帰の「ダンスパーティー&講習会」様々な工夫・準備・イベント・広告等、やれる事はなんでもやるべきではないか。

現役の皆さん、特に4年生諸君、卒業式の瞬間迄「立教大学舞踏研究会」のバトン(つながり)を確実に残していく使命&責務があると思う。

そして、「赤れんが倶楽部」メンバーにも是非積極的に参加してくれることを期待している。小生の思い込みが強いたらお詫びする。

※私見であるが、個人的に資金援助の心構えをしている。

【訃報】

山形の鎌田喜久男先生が11月4日ご逝去されました。

心よりお悔み申し上げます。

8日告別式に参列してまいりました。

先生はここ数年パーキンソン病と闘っておられました。奥様の多賀子先生によりますと約1週間前に入院された後、4日は眠るように旅立たれたとのことでした。

立教舞研70年の歴史を語るには欠かせない本当にお世話になった先生でした。

長年続いた山形上山での夏の合宿は先生のご尽力があったからこそ我々の楽しい思い出となって今も心に刻まれているのです。

式には先生のお人柄を表わすように各界から数多くの方々がお別れに来られていました。

皆さまからお寄せいただいたお香典は全員の名前を記してお供えしてきました。

ご協力ありがとうございました。

また、多くの方が個別にお供え・献花されておられます。

先生の我が舞研に対する今までのご厚情に感謝し、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

会長 細貝 正一郎